

死に対して

宮本百合子

青空文庫

「めんどくさい、死ぬんだ」

胸をしつかりおさえて居た手を椅子のひじかけの上になげ出して男は叫んだ。心で力一つばいさけんだけれど声には出せなかった。

そしてその死ぬんだと口ばししたことを又□□□の考るようになだれて自分の足を見つめた。いろいろなかわつた射げきをうけてみだれにみだれ、高ふんしにしぬいた若者の心は今にも狂いそうになって居る。辛うじて、身もだえをしないばかり、じつところえて苦しんで居るのも運命だろうと男は思て居る。「死ぬんだ死ぬんだ」と心にくりかえして居た男はやがて青いかおをして、かたくなつて居る自分の死がいのどんなに見にくいもので有ろうと思うと、どうにかしてその死がいを人目につけない方法はなからうかと思つた。男の心の、その乱れた内にもまだ何分か、その本心、美術を貴ぶ心はこのつて居た。

「女がさぞ………」

フト男はまにさされたように身をふるわせた。

「女がさぞ………」

このことばは男は死なせられるより情ない辛いことで有つた。

彼の何も彼も包まずに自分を思て居る女の様子を思い出しては、その女のことは忘れたようにしてことわりもしずくにポツカリねずみ一匹ころすより人の注意も引かずに死んでしまふことはいかにもみじめな様に思われた。

「私の生きていると云うことが貴方の生きる死ぬと云うことによつてはいきされてるんですものネ」

思い入った、まじめな、ふるえた声で女の云つたことばを思い出した。

「貴方の生きる死ぬにしいきされてるんですものネ」

男は自分の死んだと云うことをきいたすぐあとにあの白いはりのある胸から彼の女の心の色のような紅の血をながして、自分の名をよびながらそのかわい、はかない生を終る様子を想像した。その想像は心の一方でして居るので、又一方では「自分が馬鹿正直なんだ。あの女だつてどうせ人間だし、そんなことが有るかないか死んだ自分にはわかろうはずがないんだから安心だ」

こんな人ずれのしたような小にくらしいようなことも思った。けれども命までもと誓つたあのしおらしい情のつよい女のどうして自分のみじめな死様を見てそのまんまで居られるものか、

と違って、あの美くしいまだ世間知らずの若い恋を知りはじめたばかりの様な女をおしげもなく散らしてしまふと云ふことはあんまり慘こくすぎると男は思った。

「女のために」　男の死の心は幾分かよくなった。

「己にはそれで、相当に望も持つて居るんだ」

口の中でくりかえして男は今の今までもつて居た、大きな貴い、たかい、なげうったのぞみを又くりかえしてひろい上げて見た又手ばなすのがおしくなつて、愛の片はしをつまんで考えた。

「己はそれほどの勇氣もなければ、

あの女をつかまえて殺して自分もしぬほどむごくもない。

彼の女のために己は蒸溜器の底に日の目をも見ずに、かたく、くらく、つめたく、こびりついて居るピッチのようにしてでも生きて居なければならぬ」

男は心にそう思つて自分を命にかけて思つて居る、何も彼もささげつくした女の名をこころでよんで見た。

「神がそう思つてはじめから生れたもんなんだ」

男はそう云つてその女の胸をだくように力を入れて胸をだき、女の唇を吸うように深く

深く息をすった。

(終)

青空文庫情報

底本：「宮本百合子全集 第三十巻」新日本出版社

1986（昭和61）年3月20日初版発行

※底本解題の著者、大森寿恵子が、1913（大正2）年6月15日執筆と推定する習作です。

入力：柴田卓治

校正：土屋隆

2008年2月28日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたってのは、ボランティアの皆さんです。

死に対して

宮本百合子

2020年 7月17日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>